

道東地区教会連合会機関誌



道東 24 こ う ほ う 光 報



'DÔTÔUKÔHÔ', Journal of KONKOUKYOU East Hokkaido reg., No.XX Apr., 200X

巻頭言

サンタクロースに考えさせられたこと

金光教十勝教会・玉置 衛

みなさんは「サンタクロースはいるの?」というお話をご存じでしょうか。一八九七年、アメリカのニューヨーク・サン紙に八歳の少女から「友達がサンタクロースなんかいないんだと言っています。サンタクロースは本当にいるの?」という内容の質問の投稿があり、それに対して同紙の記者が社説を使って回答したというもので、そのエピソードは、今でもクリスマスシーズンになると新聞や雑誌で必ず取り上げられています。

子供の質問に社説で答えるといういかにもアメリカの新聞らしい粋な計らいですが、そこには子供も大人も関係ない、普遍的なメッセージが込められています。そこに書かれていること

は、「人間にとって本当に大事なものは、決して目に見えることではない」ということ、そして「人間は、この広大な世界の中ではアリのようなもので、自分が住んでいる世界のことを本当に理解しようとすると、世界は広すぎて、深すぎてなかなか真実を知ることができない。私たちの世界は普遍的で確かな真実を見つけることができるのは唯一、信じていることと、愛情とロマンに溢れた豊かな心です。」ということです(だいたいふ意識しています)。

結局、サンタクロースの存在を否定して失うもの、サンタクロースの存在を信じて得るものが、子供にとってだけではなく、大人にとっても、いかに大きいかということを考えてさせる内容になっています

私たちは、日々、色々な心配を抱えて暮らしています。健康のこと、職場のこと、経済的なもの、学校のこと、家族のこと、挙げればいくらでも挙がつてきます。逆に言えばそれは何事にも「安心」を得たいという状態にあることだといえます。目先の「安心」を得ようとするならば、確かに色々な方法、色々な物で得ることはできます。お金や病院など、いくつか具体的な解決方法があるでしょう。しかし、そういうものは、得てし

て一時しのぎで、心配の元を断つことにはならないものです。あるいは、また新しい心配が生まれてきたりもします。物によって得られる安心は普遍的ではありません。前述のアリの例えではあり

ませんが、天地の中で暮らす我々としては、普遍的な天地のお働き、つまり天地金乃神様のお働きを知ること、普遍的な安心を得ることができるとは、ないでしょう。私たちは、天地金乃神様のお働きを具体的に目に見たり、感じることはなかなかありません。しかし、なんでもない日常に神様の働きを見いだすことは実は難しくはないのです。なぜなら、教祖様をはじめ、多くの先人達が「信心」という形で「気付き」への近道を残してくれているからです。

天地金乃神様のお働きを信じ、そして信心をすることによって得られるもの、それはなにもにも代え難い「安心」です。そして、今ある我々が「安心」を得られるよう、信心を遺してください。先人達の思いを今一度思い直して行きたいものです。

教会掲示板
教会からあれこれ

帯広教会
帯広市東四条南八丁目四番地
TEL 〇一五五―三三―六八三五
FAX 〇一五五―三三―六八三五

エコについて(その2)
今、社会ではエコ減税、エコポイントなどエコに関するものが目につきます。エコとは何か
環境の話題になると出てくる「エコ」という言葉、もともとはエコロジ(ology)からきている。エコロジとは生態学という意味で、生物の生活や環境学との関係、つまり「環境にいい」という意味につながるんだ。一方でエコノミー(economy)のエコとも言われている。エコノミーとは経済のこと。環境と経済はつながっていて、どちらか一方だけが発展してもう

まくいかな。環境問題を世界中で解決していくことで世界の経済も発展し、人びとが安全で豊かな生活をおくれるようにと思いをこめて「エコ」という言葉が使われているんだ。(学研サイエンスより)
来年の7月にテレビがデジタル化になり、アナログ放送が見られなくなる。先月3月末、エコポイントの関係もあり液晶テレビを購入した。何かしつくり来ない。古いテレビは壊れていない、色が悪いわけではない。きれいに見られる。遅かれ早かれこのテレビは廃品業者の元に行く。エコポイントなどで還元されることはあるが「もったいない」という気がする。まだ見られるのに購入しなければならぬ現実。還元とことばで何かを誤魔化されているような気がします。今後、家電製品、自動車、家の購入など減税対象品、エコポイント商品が増えるであろう。それに伴って経済は少し豊かになるであろう。でも本当の意味でこれの良いのだろうかと問いたい。「すべてを大切に」をいつも心がけたい。
帯広教会、天地金乃神大祭は4月25日(日)午前11時です。
田中

釧路教会
釧路市宮本一丁目五番二二号
TEL 〇一五四―四二―三三五一
FAX 〇一五四―四二―三三六一

この冬は、北極発の三十年に一度という寒波が北半球を襲ったようで、アメリカ東海岸では、これまでの記録にはない大雪を降らせ、北欧のバルト海では、厚い氷に五十艘もの船が行く手を阻まれ、アジアの東海岸では、特に日本は九州の南の端まで、大雪を

もたらしたようです。釧路では、二十年以上前のように零下二十度を超えるような寒さはなかったが、雪は度々で、まだ日陰に雪は残っています。

しかし、温暖化の流れは止まってはいませんが、南極の大氷河（埼玉県大）が流れ出し、メルツ氷河（房総半島大の氷の半島）にぶつかって、メルツ氷河ごと大きな氷山になって流れ出しているという。メルツ氷河は、ペンギンの繁殖地になっていて、生態系にも影響を与えるのではないかと危惧されているという。

私たちが住まう地球は、どんな様相を変えつつあるが、これが自然の変化ならばとめようもないかも知れぬが、もし人間の天地にたいする傲慢さが、急速に進んでいる種の絶滅のように人為的な

者ならば、もつと天地の道理を見定めて、天地のお働きに精一杯感謝すると共に、人間の生き方を変えねばなるまい。江郷

滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

昨年の暮れに、滝上兼務教会長として江郷先生より御跡を受けて、初のお祭りである年頭祈願祭を一月三日にお仕えました。

前日に天候が荒れて吹雪いたりしていたものですから、滝上までの運転大丈夫かな？と自身案じていました。北海道にお引き寄せ頂き十三年になります。冬場の長距離にはこの頃やっとならぬ感じがした。吹雪くとなるととても心配でした。しかし、当日は朝から快晴で、途中の吹きだまりに注意しながらな

んとか教会に着くことが出来ました。

教会に着くと一人のご信者さんが一生懸命に雪かきをなさっていて、広前でも皆さんで用なさっている姿がとてもありがたく思えました。お祭り後、あるご信者さんが「教会でお正月のお祭りにお参りするの初めて！とても有りがたい気持ちになりました。」ということを言って頂いた時は、疲れも一度に吹き飛んだ感じがしました。

教話（自己紹介兼挨拶）の後会食、今年度の大祭霊祭の予定を話し合い、昨年の入植百年記念祭時のビデオや写真を見て愉しみました。

兼務教会長として初めてお仕えするということが、大変緊張していた私も、気心の優しいご信者さん達にほっとして、楽しくすごさせて頂きました。

後日、前任の江郷先生と話す機会があり、これらのことを報告していると、滝上教会を初代岡本政道先生がご帰幽になられたのが昭和四十三年だから、お正月のお祭りは、これこれ四十年ぶりくらいかもしれない、有りがたいことだったねと言って頂きました。

清水優氏著の金光開拓団滝上入植百年記念「源流は黒忠に叙勲を受けられた師が昭和四十二年十一月、黒忠教会、そしてご本部へとお礼参拝に行かれたことが記されています。このことから察して、もしかすると昭和四十三年の元旦祭はまだお元気でお祭りをお仕えになつていらっしゃるかもしれません。

一月三日ということで元旦というわけに行かず「年頭祈願祭」とさせて頂きました。

お正月のお祭りということでは約四十二年ぶりのお祭りに、霊神様である岡本先生にも、少しでも喜んで頂けたのではないかと思わせて頂きます。

菊川

北見教会

北見市寿町三丁目五番一号
TEL 〇一五七二四一七四七四
FAX 〇一五七一四一七四七四

私事ですが、平成二十二年

二月二十二日という、「二」づくしの日に、六十歳の誕生日を迎えました。ついに、とうとう…という何かしらの侘びしさを伴いつつも、人生の大きな区切りを迎えたという感慨と、ここまでの無事に深い感謝を覚えた日でした。

しかし、六十歳ともなれば様々に老化も進むのは当然のこと、何となく行ってみた脳ドックで、「くも膜下出血」の兆候あり、今度は救急車でお越し願うことになるでしょ

う」との診断を頂きました。また、時期を同じくして、台所の水道管が老朽化のため水漏れし、修理不能とのことで水回りの改修工事を行うことになりました。

さすがに両方の出来事は想定外のこと、心落ち着かぬものがありますが、還暦という生まれ変わりを意味する時に起こったことは、神様の深い配慮によるものと受け止めて、良い時節を頂いたことへのお礼を申し上げつつ、今後万事にご都合お繰り合わせを頂きますようお願いいたします。

また、工事のために、有り余るほどの物を片付けながら、無駄を省く生活の仕方と心をの改まりは繋がっているなど気づかされ、信心は特別なことではなく、日常生活そのものだとということは今更ながら実感しています。

矢代

網走教会

網走市北四条西一丁目六番地
TEL 〇一五二四三二九九五四
FAX 〇一五二四三二九九五四

春の霊祭に併せて三代教会

長浅野千代先生の六十年祭をお伝えしました。千代先生は、明治二十八年、函館市でお生まれになりました。函館高等

女学校を卒業後二年間を小学校の先生として務めておられました。すでにお道の信心を深く奉じておられたのでしよう。大正九年に函館教会初代矢代幸次郎先生を師と仰ぎ、函館教会にて修行、大正

十一年にお道の教師となられた後も引き続き函館教会にて修行をなさっています。その間に、おそらくは師のお計らいでしょう、浅野民次先生(当教会二代)と結婚なさいます。

大正十三年、函館の上磯地方にいる信奉者等の願いによ

り、師の命をもって上磯教会設立なり、浅野先生御夫妻が御用に立たれることになりました。ところがその布教は非常な困難を極めることとなり、昭和二年上磯教会解散と同時に網走教会に後継として差し向けられることとなります。

当時、網走教会には常在の教師がいませんでした。初代の貝瀬米吉先生が布教四年目の大正十四年、いかなる理由があつてのことか出奔したまま戻らず、浅野先生が来るまでの二年あまり教師不在となつていたからです。

千代先生御夫妻には五人のお子さんがいました。その中に龍介さんという方がいたのですが、昭和四年に幼くして亡くなっています。後継二年目のことでした。お日様が燦々と輝く夏の日の景色も御夫妻にはどの様に映ったこと

でしょう。

函館から網走に移り住み、慣れることで精一杯、同じ北海道とは言え、端から端への移動、気候風土人心も全く違ってくる。そんな中でのことでした。

それから五年後のことです。今度は頼みとしていた民次先生が五十才にしてご帰幽になります。後継七年目、千代先生三十九才の時でした。海も山も実りの秋を迎え長い冬に向け慌ただしい季節のことでした。

人や物は当てにはならない、例えば夫であっても・・・頼りにするのは親神様のみと思いい極められてか、民次先生の志を受け継ぎ、三代教会長の御用に立たれることとなりま

す。民次先生ご帰幽の一月前に千代先生のお父さんが亡くな

母さんを引き取り、子供四人を抱え女手一つの教会御用が始まりました。

千代先生五十才、教会長に立たれて十年が過ぎ、教会御用も漸く軌道に乗り始めた頃、道一さんという未だ若いお子さんを亡くし、その二ヶ月後、孫の後を追う様にお母さんが亡くなってしまう。また、その前後くらいに長女の方が嫁ぎ先で結核となり、授かっていた一人のお子さんとは引き離され、戻されてしまうということが起きてきます。そしてその娘さん

もまた若くして亡くなってしまいます。筆舌に尽くしがたい程に、次々と押し寄せる難儀の中に、千代先生は何を思い、どの様な信心をなさって、どの様な生き様を現して下さったのだろうか。今にその事を伝えてくれる人もなく、ある

のは難儀の事実と、千代先生五十五才、帰幽のその時が来るまで教師であられたということのみです。

こうした千代先生のご一生を思うときに、御跡を受けた私は、ただただ千代先生に心安心頂けるような教会の中心作りとこの網走地方に真の意味で天地の親神様、金光様が定着することを私に代

菊川

十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二一
TEL 〇一五五七一一一三三三
FAX 〇一五五七一一四二二三

今年、初代教会長玉置藤太先生が信奉者有志と共に池田町に教会を設立して90年の節年になります。今から90年前、大正9年という、第一

次世界大戦が終結した翌年あたり、国際連盟の創設などようやく、世界が新しい国際秩序を求めて動き出した年であり、同時に日本国内では、戦後恐慌がはじまり、社会が混乱していく時代でもありません。この時代背景は、なんとなく今の時代に共通するものがあるように思えます。

世界的には大国の指導者が替わり、それまでの閉塞気味だった世界秩序が少しずつ動きたし、一方国内は、新しい秩序を目指して選択した政権が実はイマイチ世間からずれたものだったことが判明し、未だ景気は回復せず、社会全体には様々な形で不安が漂っています。

本来こういうときにこそ「信仰」というものが人々の心を支えていくはず。目に見える不安に対しては、何か物理的で具体的な「目に

見える方法」で対処することができません。しかし、得てして「不安」というものは漠然としたもので、それでいて不安が不安を生むというのがよくあるパターンで、不安の材料を取り除くことはなかなかできません。しかし、どんな事が起ころうとも安心を得ることができるとも。それが信仰、つまり信心であるはずで、す。金光教にせよ他宗にせよ、本来宗教には大きな目標があるはずですが、どうも我々は、目先の問題ばかりに目がいきすぎていて、信心の本当の目標を見失いかけているような気がします。教会創立記念の節年にもう一度、「なぜ信心が必要なのか？」というところを見つめ直していきたいものです。

玉置

道東地区教会連合会ホームページ <http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/DOTO>

行事報告

▼平成21年度役員会

- ・月日 平成21年10月27日
- ・会場 北見教会
- ・出席者 連合会役員
- ・内容 平成21年度行事、会計報告平成22年度行事予定案、予算について

▼平成22年度総会

- ・月日 3月22日(月・祝)
- ・会場 北見教会
- ・出席者 15名(総会)
- 19名(研修会)

◆総会行事

- ・内容 平成21年度行事、会計報告
- ・議案は全て承認されました。

◆研修会

- ・「教祖様の伝えたかったこと」
- ・提言 玉置 衛先生
- ・内容 提言を受けて懇談

★道東地区各教会大祭日程

- 釧路教会 春・5月30日(日) 秋・10月24日(日)
- 北見教会 春・5月2日(日) 秋・11月3日(祝)
- 十勝教会 春・4月18日(日) 秋・11月7日(日) 創立90記念大祭
- 帯広教会 春・4月25日(日) 秋・11月14日(日)
- 網走教会 春・5月23日(日) 秋・10月31日(日)
- 滝上教会 春・6月6日(日) 秋・10月10日(日)

平成22年度 道東地区教会連合会行事日程

- 第10回道東地区教会連合会交流パークゴルフ大会
日時会場 7月2日(金) 14時 レイクサイドパーク・のどろ(網走)
終了後会場を移動して懇親会、翌日は「あいよかけよの集い」
- 「あいよかけよの集い」(信心研修会)
日時会場 7月3日(土) 9時 網走教会
- 青年家族交流会(あわせて教区青年の集い「どさんこパーク」)
日時会場 8月28(土)～29(日) 網走教会、レイクサイドパーク・のどろ
内容 懇親会と潮干狩り